

きたはら 北原4遺跡

遺跡番号 平成11年度登録
所在地 村山市本飯田
北緯・東経 北緯38度32分30秒 東経140度23分18秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起因事業 東北中央自動車道（東根～尾花沢）建設事業
調査面積 2,900㎡
現地調査 平成22年5月21日～11月26日
調査担当者 佐竹弘嗣（現場責任者）・渡部裕司
調査協力 東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所・村山市教育委員会・村山教育事務所
遺跡種別 集落跡
時代 縄文時代・平安時代
遺構 土坑・溝跡・柱穴
遺物 縄文土器・土師器・須恵器・陶磁器・石器（文化財認定箱数：2箱）

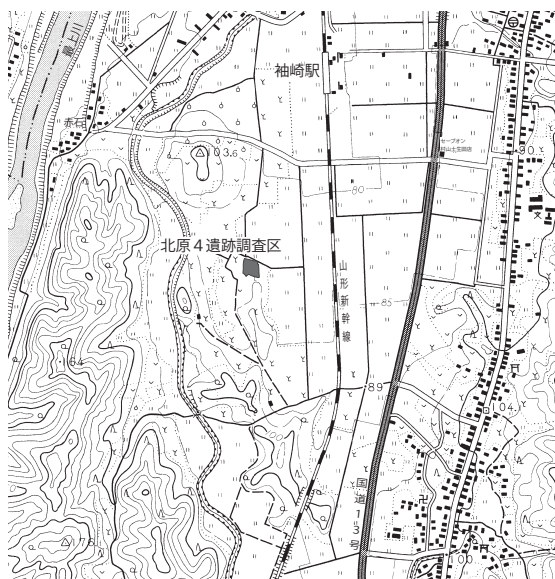


図1 遺跡位置図（1：25,000）

調査の概要

北原4遺跡は、JR袖崎駅から南西800mの地点に位置する（図1）。調査区は遺跡範囲の北側に広がる丘陵部で、高低差は約5mを測る。丘陵の中央部から南側は畑等の造成により攪乱されており、一部では地山面が露出していた。表土を除去し、遺構を検出する段階で縄文土器や石器、須恵器といった遺物が見つかった。検出された土坑や溝跡、ピット等を掘り下げたが、遺構内からは遺物はほとんど出土していない。調査区南東部の



図2 遺物出土状況

最も標高が高い地点では、奈良・平安時代に焼かれた須恵器の破片が複数見つかった。器種は高台付環とつきふたの坏蓋等で、胎土・色調などからひとそりで使われていたものと推測される（図2）。しかしこの出土地点周辺は大きく攪乱を受けており、どのような遺構に伴う土器であるのかは不明である。その他の土器も、小破片で全体の器形が分かるものはない。縄文土器の破片は、施された文様などから縄文時代早期～後期に属する土器であることが分かった。また、調査区の西側では、風倒木の痕跡が複数見つかったが、その内の1つからは縄文時代早期の遺物が出土している。今回の調査によって、縄文時代早期～後期という長い期間および奈良・平安時代に丘陵部が利用されていたことが明らかとなった。